



# 健康社会学研究会

## ニューズレター No.55

発行:健康社会学研究会 (ホームページ) <http://www.fureai.or.jp/ribbon/healpro/>  
事務局:〒504-8511 岐阜県各務原市那加町榑野丁5-68 東海学院大学健康福祉学部 森川研究室内  
TEL:058-389-2200(内線315) FAX:058-389-2205 E-mail:healpro@tokaigakuin-u.ac.jp  
ニューズレターNo.55 / 2009年7月 編集担当:臺有桂

### 第43回 健康社会学セミナー報告

報告者 臺有桂

平成21年5月30日(土)、日本子ども家庭総合研究所にて、第43回健康社会学セミナーが開催された。保健・医療・福祉を中心とする大学や研究機関の研究者、行政の保健医療専門職、学生など、30名近くの参加者があり、大変活気に満ちたセミナーとなった。

**テーマ** 『原点である 地域を再び見直してみよう～ 地域を「みる」、「知る」、「語る」～』  
**基調講演** 社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター  
常勤顧問 岩永俊博氏

#### シンポジウム

**シンポジスト** 「ポピュレーションアプローチで効果的に！」  
静岡県牧之原市健康増進部健康づくり室 保健師 古川馨子氏  
「合併を経験した管理栄養士の立場から」  
茨城県常総市地域包括支援センター 管理栄養士 木本真理子氏

**コーディネーター** 横浜市立大学医学部看護学科 臺有桂

基調講演は、「地域をみる」、「地域を知る」とは、「地域の何をみよう」、「地域の何を知らう」というのか、しかもその目的は何だろうかとの問いかけから始まりました。

私たちが地域で活動をしようとするとき、その地域のデータを集め、そこから問題を探し、どう活動を展開すべきかを検討します。しかし、地域のデータを集め、見つめるだけで問題が浮き上がってくるわけではありません。漫然とデータを眺めているのではなく、意図的にみる、知ろうと思わないと、問題は見えてこないものなのです。また、何を問題ととらえるのか、その定義や基準が関係者間で共有されていないと、方法論や描くゴールが人によって異なってしまい、活動が思うように展開できないジレンマに陥ってしまう事態となります。

これらをクリアしていくには、そもそものあるべき姿と現実とのギャップが問題であることを再確認し、そもそものあるべき姿の共有を関係者間で、事前に、きちんとすることが重要です。地域のあるべき姿(目的、目標)を具体的に描くことで、それを実現するために必要な条件、そして条件を充足するためにすべきことや関係者の役割も見えてきます。多くの場合、個々の事業を積み上げることで全体の目的を達成しようと考えがちです。しかし、本来は全体像を



描き、そこから階層的に個々の事業を位置づけること大切で、この構造的に展開するシステムを作るのが行政職の重要な役割であるとお話がありました。

続いてのシンポジウムでは、市町村合併での経験を通し、地域をみる、知る、語るとは何か、保健師、管理栄養士の立場からの発表がありました。

木本氏には、管理栄養士の立場から、合併前後の業務や組織の再編成なども含めた合併による地域の変化の実際と、組織改編の時機をうまくとらえた活動により、合併により崩れかけたコミュニティが再度良い方向に動き始めた体験をお話いただきました。



古川氏には、保健師の立場から、合併には利点も欠点もあるが、合併する市町村それぞれのいいところを残すように工夫をすることで、むしろ活動の幅が広がる可能性もあること。ポピュレーションアプローチは地域全体を見ないと進められないをモットーに、地域の特性を踏まえ、多くの人を巻き込みながら、自ら「健康戦隊ももレンジャー」隊長として活躍している事例など、楽しいばかりでなく成果にも繋がる活動の実際をお話いただきました。

その後のグループワークでは、基調講演、シンポジストの発表を受けて、時間を忘れるくらい、熱心に情報交換やディスカッションがされました。

最後に、岩永氏から、市町村合併こそ構造的に展開すべきであった典型事例であり、全体枠をしっかりと押さえることが大切であるとのコメントをいただきました。

地域を「みて」「知る」ことが活動の第一歩と思いながらも、ともするとデータを集め、きれいな言葉で計画立案をすることで安心してしまっていたことを深く反省しつつ、参加者間で「語る」ことで再び原点に立ち返ることができたセミナーでした。

## 平成21年度 総会 開催報告

さる5月30日(土)に、平成21年度健康社会学研究会総会を開催しました。5議案について審議した結果、全て原案どおり承認されましたのでご報告いたします。

## 7月月例会のご案内

**テーマ** 「健康社会学における幸せ研究の位置  
日本人の幸せ価値観と健康行動を例とした考察」

**発表者** 助友 裕子 氏  
(国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部)

**日時** 平成21年7月25日(土) 15時から17時 (受付14時30分~)

**場所** 日本子ども家庭総合研究所3階 会議室

**参加費** 会員無料、非会員1,000円

上記のテーマに至った経緯と幸せ研究の現状を概観し、実際に「幸せ価値観」を調査したデータを示しながら、健康社会学における幸せ研究の位置について参加者の方々と共有を図ることを試みます。

多くの方々の参加をお待ちしております。月例会終了17時30分から広尾周辺で懇親会を開催しますので、こちらも是非ご参加ください。